

# 序

体腔穿刺は、診断や治療の手段として、① 測定、② 検体の採取、③ 体腔内の貯留物の排出、洗浄、④ 薬液などの注入などの目的で行われます。緊張性気胸の患者を胸腔穿刺とドレナージによりショックを離脱させたり、急性化膿性胆管炎の胆道ドレナージや敗血症性ショックの原因となった膿瘍のドレナージにより患者の状態を劇的に改善させたなど、瀕死の患者を救命できた経験も少なくありません。このように体腔穿刺は生死を左右する非常に重要な手技です。

しかし、穿刺手技そのものが、目的部位までの経路にある組織や臓器を刺す侵襲的なものであり、また、体表からは見えない部位を穿刺するため本来の目的部位とは異なった臓器を穿刺し、出血などの致死的な合併症を生じることもあります。

このような重要でありながら危険を伴う体腔穿刺について、今までわかりやすく解説された書籍はありませんでした。

そこで、今回、体腔穿刺についてより安全にかつ上手に実施できるように手技のノウハウを、カラー写真やイラストをふんだんに使用し記載する書籍を刊行することとなりました。

さらに本書では、各分野の多数のエキスパートの方々にご執筆いただきました。手技には、教科書に書かれている事柄だけでは実は上手にできず、その手技独自のポイントやコツがあることが多く、これらのポイントやコツは実際に多数経験した方でないと知り得ません。エキスパートのみが知り得る、各手技のポイントやコツについても伝授いただきました。

この冊子で体腔穿刺のポイントやコツを習得していただき、より安全で上手なエキスパートの体腔穿刺を実施いただきたいと願っています。

2008年9月

名古屋大学医学部附属病院  
救急部、集中治療部  
眞弓俊彦